

原 著

中越失語症友の会「あゆみの会」の紹介

河 端 里 佳* 目 黒 文*

失語症者が社会生活に適応するためには、失語症者や家族が相互に交流し、社会性を取り戻す場所が必要と考える。その交流の場として中越失語症友の会「あゆみの会」を組織し15年が経過した。

今までの活動を振り返り、当会の意義と問題点を明らかにするためにアンケート調査を行った。その結果、このような友の会活動に参加することは、患者会員や家族、言語聴覚士（以下、STとする）にとってそれぞれ意義があることが分かった。しかし一方で、会員の主体性を引き出せないことや、社会参加の場が広がらないことなどの問題点もあった。これらの問題点を解決するには、ST以外のボランティアの導入を考慮する必要があると考える。

キーワード：失語症、友の会活動、ボランティア

はじめに

失語症のためにコミュニケーションが困難になると、言語の側面だけではなく病前の社会的役割や人間関係、自己のアイデンティティーをも喪失することが多い。そのため、失語症者に対する言語訓練は、コミュニケーション能力の改善を図るだけではなく、言語環境調整や社会生活への適応にも配慮する必要がある。それには言語機能の改善に焦点を当てた、通常の一对一の言語訓練だけでは不十分である。

そこで、失語症者や家族が相互に交流し社会性を取り戻す場として、中越失語症友の会「あゆみの会」を組織した。今回、15年間の活動を振り返り、意義と問題点について考察を加えたので報告する。

会の目的

「あゆみの会」は、「失語症者および家族相互の親睦と理解を深め、障害を克服すること」を目的としている。

構成

当会は、16年前に当院を退院した失語症者に対し、外来グループ訓練を行ったのが始まりである。そこから発展して現在の「あゆみの会」に至るまで、この15年間の参加延べ人数は約1200名である。現在の会員数は中越地区の病院を退院した失語症者22名と、そのほかに家族および当会の趣旨に賛同する中越地区のST

5名が、ボランティアとして参加している。

活動概要

毎年4月に総会を開き、患者会員の代表の選出や新年度の活動計画を立てている。

例会は冬期間を除き月一回、原則として第2日曜日に、主に言語的要素を含んだゲームや手紙作り、買い

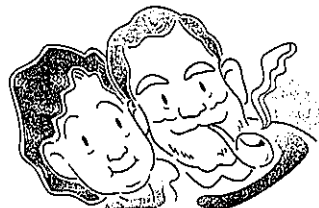


図1 「あゆみの会ニュース」
(表紙は会員が作成している)

*〒940-8653 新潟県長岡市福住2丁目1番5号
長岡中央総合病院リハビリテーション科言語聴覚士

物やバスハイキングなどを行っている。また5年前からは、一年に一度開かれる「新潟県失語症者のつどい」に「あゆみの会」として参加している。

例会では、STは司会進行をしながら、会員同士がお互いに声をかけたり手伝ったりするよう、配慮している。家族は会員から離れて座り、家族同士で話をしたり、必要があれば活動を援助したりしながら参加している。

また、毎月会員代表とSTが役員会を開き、ニュースの作成、発行をしている(図1)。その月の活動内容や会員の様子などのほかに、翌月の活動内容の詳細を決めて記事にし、掲載している。

アンケート結果

15年間の活動を振り返り「あゆみの会」の意義と問題点を考察するために、会員と家族に対しアンケート調査を行った。アンケートの内容は、会への参加状況、参加する意義、参加できない理由、当会以外への外出状況などである。

アンケートの結果を図に示した。参加する意義として、会員からは「同じような病気の人がいることが分かった」「気がねなく話ができる」「外出の機会が増えた」「悩みを分かってもらえる」などの意見が挙がった(図2)。家族からは「同じような悩みを持った人たちと話ができる」「気分転換ができる」「患者の外出の機会になる」といった声が聞かれた(図3)。

参加できない理由として、交通の便の悪さや体調の不良が挙がったが、そのほかに「仕事が忙しくなってきたから」「あゆみの会以外で活躍の場が増えてきた

から」という意見もあり(図4)、活動の場が広がったことが伺えた。

当会以外への外出状況は、市町村のリハビリ教室、デイ・サービスへの外出が大半を占め、地域のサークルや町内会、老人会への参加は17%にとどまっている(図5)。このことから外出先が、「あゆみの会」のような、身体機能や言語機能に障害を持つ人たちの参加する場所に限られており、より自主的・積極的な外出が少ないことが分かった。

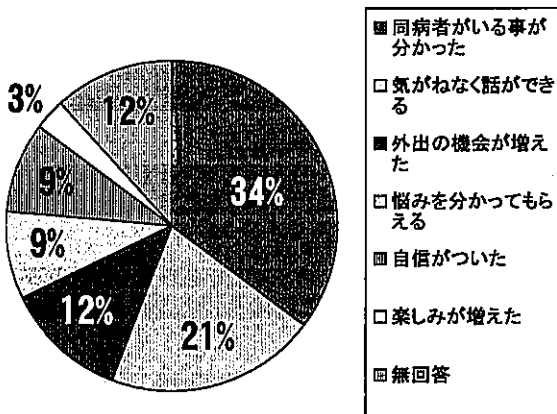


図2 参加する意義 (会員)

(複数回答)

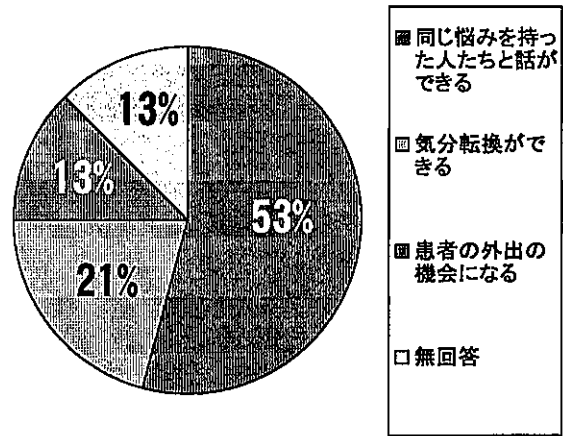


図3 参加する意義 (家族)

(複数回答)

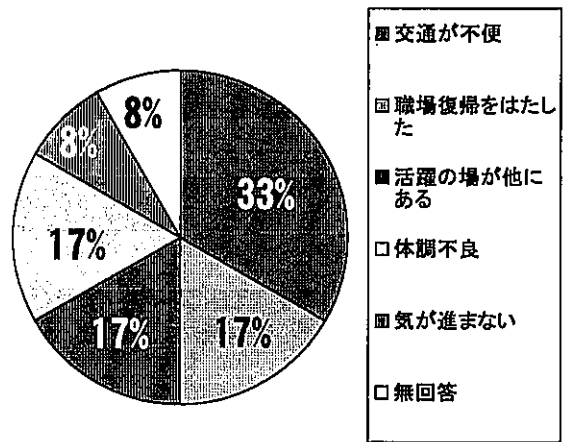


図4 参加できない理由 (会員)

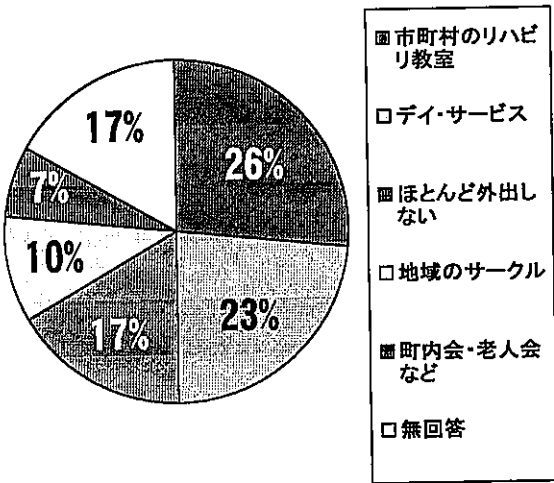


図5 外出状況

意 義

以上の結果より、このような友の会活動に参加する意義を考察した。

まず患者会員は、交流を通して失語症という障害を共有し、不安や悩みを抱えているのは自分だけではないという、安心感や連帯感を得ることができる。また、活動を通して自信を持ち、社会生活への復帰の足掛かりを作ることできる。

家族にとっては、家族同士で情報交換や相談ができ、心の支えの場になる。

関わっていくSTにとっては、失語症の長期的な回復や退院後の言語生活を把握することができる点で意義がある。

問 題 点

アンケートの結果から、中には主体性を取り戻し、

新しい活動をしたり別の集団に参加したりする会員もいるが、その一方でほとんどの会員は、社会参加の場が受身的な場に限定されていることが分かった。

また、実際の活動場面からは、指示通りにしか活動できなかったり、受身的な反応を示す会員が多いことが見受けられる。

以上のことから、①会員の主体性を引き出せないこと、②社会参加の場が広がらないことが問題点として挙げられる。

考 察

会員の主体性を引き出すためには、個人のコミュニケーション能力にあった手段で、個別に援助することが重要であると考えられる。その際STは会員に選択権をゆだね、意思決定を促すよう関わる必要があると思われる。

また、社会参加の場が広がらない理由としては、閉鎖的な言語環境が挙げられる。失語症者は、コミュニケーション方法が狭められるために、家族やST以外の人たちとのコミュニケーションを避けてしまう傾向がある。そのため失語症者の言語環境は、相手が限定された、閉鎖的で受身的なものになっていると言える。そこで、第三者とのコミュニケーションの場を作ることが、社会参加の場を広げることにつながると思われる。

以上のような関わりを考慮すると、今後はST以外のボランティアの育成とその導入を考慮する必要があると考える。

おわりに

当会の15年間の活動を振り返り、意義と問題点について考察した。「あゆみの会」の活動がさらに発展し、失語症者が少しでも社会生活に復帰していけるよう、問題点をふまえ、今後も活動を続けていきたい。

Original Article

Introduction of the "Ayumi Kai", the Chu-Etsu Friends of Aphasia Society

Rika Kawahata* and Aya Meguro*

We think that a place is needed for aphasics and their families to interact and to regain their sociability in order for aphasics to adapt to living in society. We organized the "Ayumi Kai", the Chu-Etsu Friends of Aphasia Society, as a setting for such interaction, and it has been in operation for 15 years.

We looked back over the society's activities thus far and conducted a questionnaire survey to elucidate the significance of the society and problems related to it. According to the results, participation in this friends' society was found to have meaning for the patients who are members, for their families, and for the speech therapists (STs). However, there were also such problems as being unable to draw out the independence of the members and failure of the social participation setting to expand. We think that solving these problems will require the introduction of volunteers, in addition to the STs.

Key words : aphasia, friends' society activities, volunteers

*Speech Therapists, Department of Rehabilitation, Nagaoka Chuo General Hospital
Fukuzumi 2-1-5, Nagaoka, Niigata 940-8653